

五十五の団子

一局地的に分布する
人生儀礼一

年中行事や人生儀礼と呼ばれる民俗の多くは、正月や盆行事、婚礼や葬式のように、地域ごとに多様性を持ちつつも、同じ機会に広く全国的に行われているものがほとんどです。

そのような中で、どういう訳か、分布が局地的な民俗が存在していることがあります。

今回紹介する五十五の団子もその一つで、年祝い、あるいは厄年の一つと考えられる風習です。

年祝いとは、人生の中で特定の年齢となった者を、その親族や知人・友人などがお祝いするもので、数え年61歳の還暦、70歳の古稀、77歳の喜寿、88歳の米寿、99歳の白寿などは、広く全国で祝われています。一方、厄年とは災厄に遭いやすいとされる年齢で、男性は25歳、42歳、女性は19歳、33歳が全国的に知られ、厄除けが行われていますが、これとは異なる年齢とする地域もあります。

五十五の団子は、年祝いの行事とも厄年の行事とも伝えられるもので、埼玉県・群馬県・栃木県の境界とその周辺地域に限って伝えられています。

埼玉県内の報告からいくつか拾ってみましょう。

『かわさとの民俗』には、男女とも数え年の55歳になると「団子の祝い」といって、兄弟や嫁の実家を招いて祝ったとあります。一合の米を石臼で挽いて粉にして、55個の小さな団子を作ります。団子にはこしあんを付けます。55歳を迎えた人は、「寿」と書かれた肌着を着て登場し、団子を一人で食べ、集まった人々からお祝いされるのです。

一方『埼玉県史』には、旧北川辺町（現在は加須市）の例として、55歳は厄年で、娘の嫁ぎ先等の親戚に招かれてもてなしを受け、そこで茶碗一杯の米粉で作った55個の団子を食べるとあります。

また、行田市の例として、「五十五の祝い」「五十五の団子」といって、親類・縁者の家に招かれて御馳走になり、一合分の米粉で作った55個の団子が出され、長寿であることを祝うと共に、中風にならないまじないであると書かれています。

他に『熊谷市史』にも五十五の団子として、団子にあんこが添えられた写真が掲載されています。

この儀礼の背景には、奇数が重なる55という数



今回作ってみた五十五の団子
(55歳の学芸員が完食しました。)

字が、五節供（5月5日の端午の節供等）と同様に人生儀礼でも特別視されたことがあると思われる。

厄年と年祝いは全く別なものと思われるかもしれませんが、ある年齢を生命力の衰退の年と考えるか、生命力の更新の年と考えるかの違いであり、地域によって同じ年齢が厄年・年祝い・厄年祝いと様々に呼ばれている例もあります。なお、節供も端午の節供が菖蒲湯を伴うように、祝いと祓いの性格を併せ持っています。

一方、団子は小正月に作る繭玉団子や、十五夜団子、四十九日の法要に際して作る団子など、様々な儀礼で用いられる特別な食べ物です。吉見町の安楽寺で6月18日に開かれる「厄除け朝観音」で売られる厄除け団子など、厄除けの御利益を持つ団子を頒布する寺社も全国各地にあります。

普通、五十五の団子は一人で食べるものとされています。還暦を前にした55歳に、生命力の更新を図るために周囲の人々が作ってくれた団子を体内に取り入れることで、厄除けや長寿を実現しようとしたものでしょう。

ではなぜ五十五の団子は局地的に分布しているのでしょうか？これについては来年度計画している企画展「祝いの民俗」の中で、他の習俗と絡めて御紹介できるよう、現在調査を進めています。どうぞ御期待ください。（展示担当 内田幸彦）

日米人形交流と答礼人形秘話



平成 27 年度に東京都墨田区で小林人形資料館を運営している小林操さんから、文部省の学務局長を務めた関屋龍吉が、答礼人形「倭日出子」に仮託して、アメリカ各地での歓迎ぶりを記した旅行記兼報告書『アメリカへ行ったお人形の日記』（昭和 5 年、日本国際児童親善会出版、序文は渋沢栄一でその原稿は渋沢史料館に現存）と答礼人形「東京府・栃木県」紙焼写真が当館に寄贈されました。

『アメリカへ行ったお人形の日記』は国立国会図書館にも収蔵されておらず、全国でも 3 冊しか確認されていない言わば幻の本です。

昭和 2 年に行われた日米人形交流の直接のきっかけは、大正 13 年に米国議会で排日条項を含む「新移民法」の可決という事態でした。アメリカン・ボードの宣教師として来日して同志社大学神学部教授も務めたシドニー・ルイス・ギューリックは「次の世代の子供たちにお互いの文化的理解と好意の確固とした基盤を打ち立てることで、未来の世界平和を達成する」ことを目的とした世界国際親善会を設立し、日本には雛祭りという習俗が 3 月にあることを知っていたので、日本の子供たちに 100,000 体の人形を贈って日米両国の子供たちが子供のころから仲良くすることをねらったドール・メッセージプランを計画しました。

人形製造にも新しい技術が導入され始めた頃で大量生産が可能になった時期だったために、全米各地から約 13,000 体の人形が集められて、3 月に間に合うように船で日本に向けて送られました。

日本では、渋沢栄一を会長とする「日本国際児童親善会」が組織されて、米国から送られて配布された人形は 12,739 体です。埼玉県には 178 体が配布されたことが渋沢史料館に残る書類から確認できるものの、平成 27 年現在では 12 体しか残っていないのが残念です。

他所から品物を贈られた時に何もしないのは気が済まないということで、答礼人形の計画が持ち上がり、高さ 80 センチの市松人形が贈られることとなり、一種のコンクールで製作が競われることになりました。大正天皇の喪に服していた人形業界は久し

ぶりに活況を呈することとなり、寄贈者の義父になる人形生地師の小林岩四郎は 200 個の生地を作り希望する人形師に分けて、100 体近くの人形が完成して優秀な作品 51 体と京都製 7 体の 58 体選ばれて、付属品とともに船でクリスマスに間に合うようにアメリカに送られました。

答礼人形は、日本で初めて白足袋を履かせた人形で、小さすぎて大人向足袋専門の人では作れず、発想転換して力士の足袋を作る職人に作ってもらい難題を解決したといわれます。代表人形「倭日出子」及び 6 大都市（東京市、京都市、大阪市、神戸市、名古屋市、横浜市）の人形は京都製の木彫りの人形、海外領土（朝鮮、台湾、樺太、関東州）と各道府県の人形は東京雛人形卸商組合製作に係るものです。

答礼人形のうち何体かの人形は渋沢栄一本人が名付親で、「ミス埼玉県」とも呼ばれる人形は「秩父嶺玉子」という名前を持っています。また、栄一は青い目の人形が米国から贈られた直後に作られた映画に子役とともに出演もしています。

答礼人形は、米国内を巡回展示されているうちに取り違えが行われて、台座の名称と本体の人形が異なる場合が多くあります。サウスカロライナ州チャールストン市のチャールストン博物館にある「ミス埼玉県」は昭和 2 年当時の「ミス台湾」であり、ペンシルバニア州ピッツバーグ市カーネギー自然歴史博物館の「ミス高知県」と言われている人形が昭和 2 年当時の「ミス埼玉県」です。

（資料調査・活用担当 針谷浩一）



答礼人形「東京府(左)・栃木県(右)」



歴史と民俗の博物館イベント情報(3月～6月)



埼玉県のマスコット
コマン

■企画展「蔵出し資料 - 館有コレクションの優品 -」3月19日(土)～5月8日(日)

3月

- 1日(火) 美術展示「春の宴」(～3/27)
- 5日(土) 十二単・小袿と男子装束の着装体験
- 6日(日) 型付け藍染め
- 8日(火)～9日(水) 館内消毒(臨時休館日)
- 12日(土) 火おこし体験教室
- 19日(土) 企画展「蔵出し資料」オープン(～5/8)
- 20日(日) 企画展関連講座
「安政大地震後の世相を伝える鯨絵」
- 21日(月休) 博物館春まつり ポン菓子作り
- 27日(日) 企画展展示解説
- 29日(火) 美術展示「武家の美」(～6/12)

4月

- 9日(土) 十二単・小袿の着装体験
- 10日(日) 企画展展示解説
- 23日(土) 歴史民俗講座
「企画展『蔵出し資料』から」
- 26日(火) 埼玉の人物「柳沢吉保」(～7/24)

埼玉の人物「本多 静六」(1/19～4/24) 開催中

5月

- 1日(日) 企画展展示解説
- 5日(木・祝) 博物館子供まつり 射的遊び・兜をかぶろう
- 8日(日) 企画展展示解説
- 14日(土) 新収集品展オープン(～7/3)
- 19日(木) 藍染風呂敷作り
- 28日(土) 十二単・小袿と男子装束の着装体験

6月

- 14日(火)～19日(日)
館内消毒・清掃(臨時休館日)
- 21日(火) 美術展示「祈りの美」オープン
民俗展示室「牛馬と農耕」オープン
- 25日(土) お雛子体験教室
歴史民俗講座

毎週土曜日には博物館裏方探検隊を実施!

※イベントは事情により変更する場合があります。
詳細はお問い合わせください

今後の展覧会



交通機関
東武アーバンパークライン(野田線)
大宮公園駅下車徒歩5分

埼玉県立
歴史と民俗の博物館 (編集発行)
Saitama Prefectural Museum of History and Folklore

〒330-0803 さいたま市大宮区高鼻町4丁目219番地
TEL. 048-641-0890 (管理)
048-645-8171 (学芸)
FAX. 048-640-1964
<http://www.saitama-rekimin.spec.ed.jp/>



埼玉県立歴史と民俗の博物館だより
Vol.10-3 (通巻)第30号
2016年2月19日発行